

経営比較分析表（令和2年度決算）

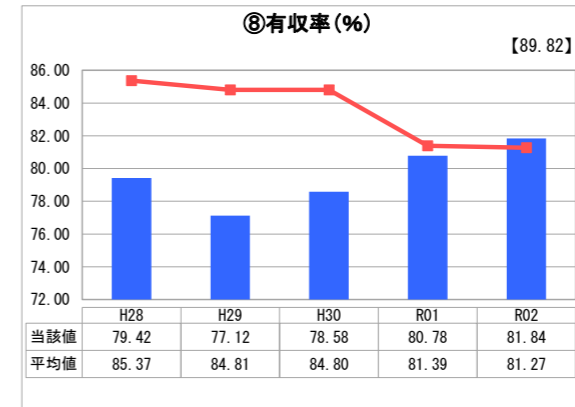
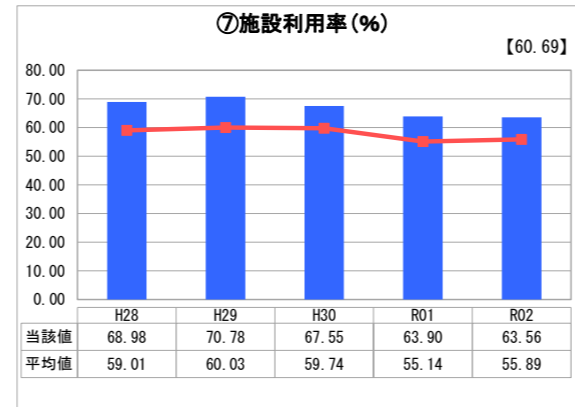
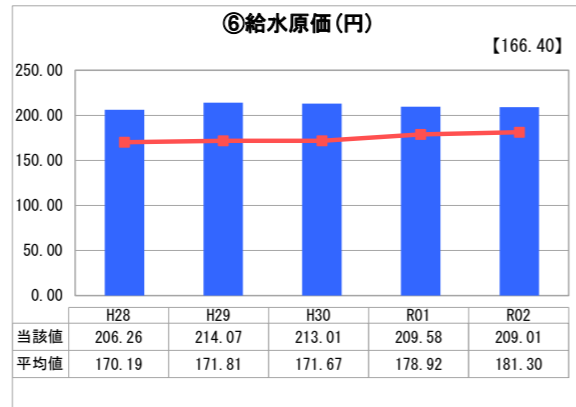
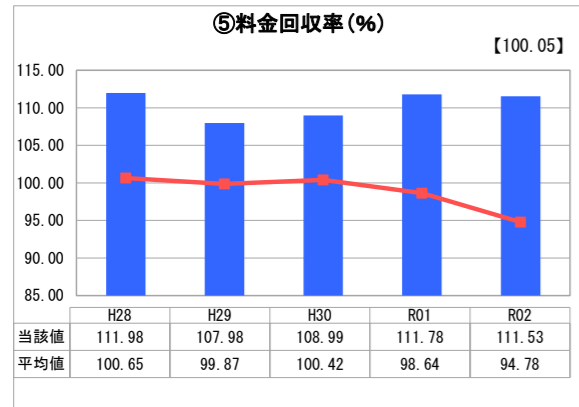
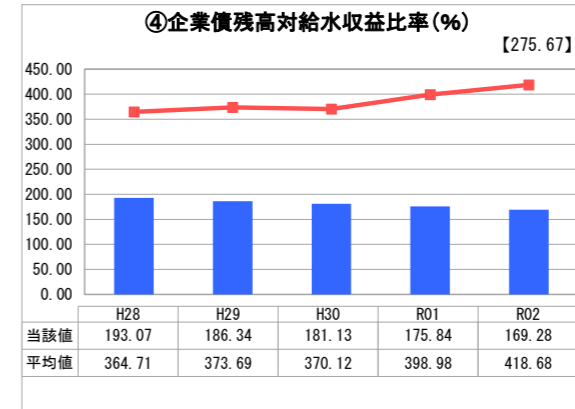
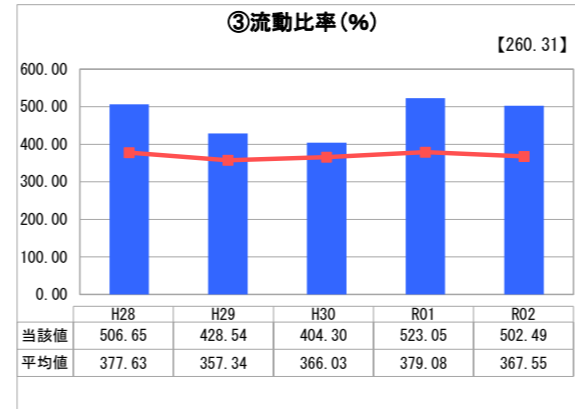
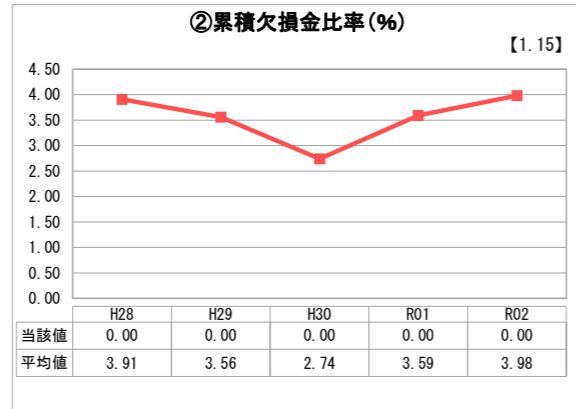
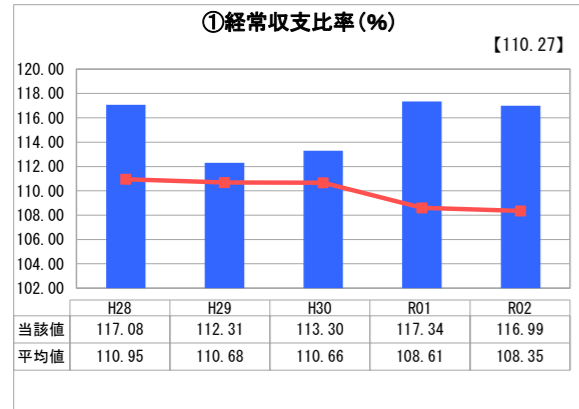
山形県 南陽市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.85	96.27	4,840	

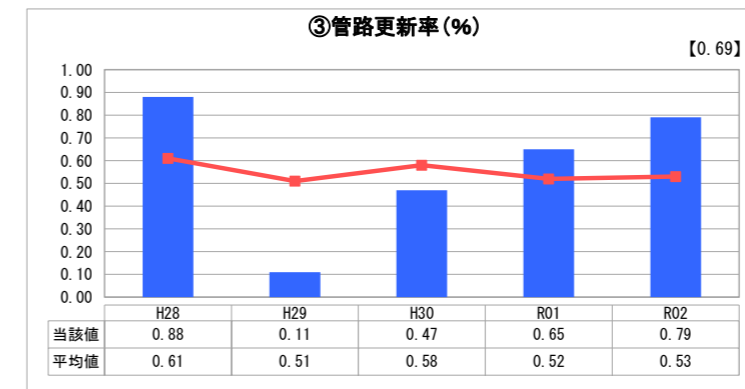
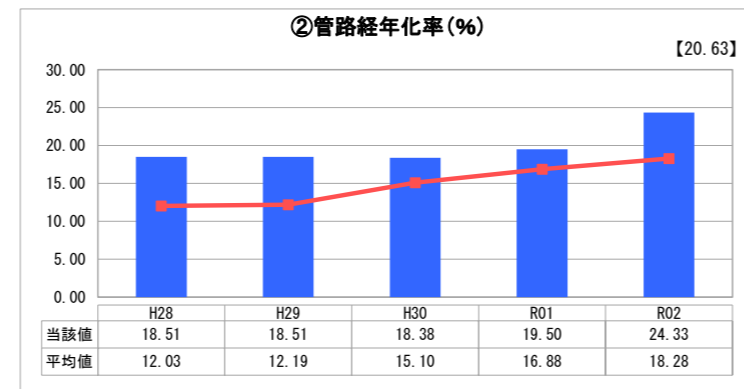
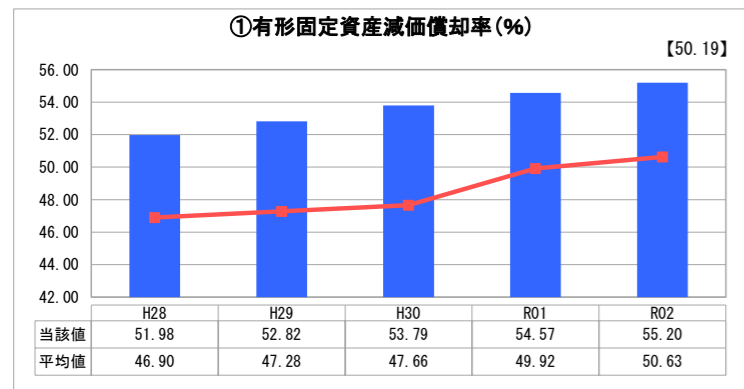
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,740	160.52	191.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
29,426	57.75	509.54

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市水道事業の経営状況は、①経常収支比率に示す通り収益が費用を上回っており、類似団体の平均値より高く、赤字に当たる②累積欠損金も生じていないため、経営状況はおおむね良好であると言えます。

③流動比率は類似団体の平均値を上回り、④企業債残高対給水収益化比率は類似団体の平均値の1/2を下回ります。企業債の借り入れを抑制し、将来負担の軽減を図っているものです。昭和40年代後半～昭和50年代に盛んであった宅地造成に伴い整備された管路の更新期に入っていることから、内部留保を活用しつつ、企業債発行による借入金を加えた原資によって老朽管の更新を図っていきます。

⑥給水原価が類似団体の平均値を上回るのは、当市には自己水源を用いて給水する区域に限られ、大半を県の広域水道から受水していること、また、当市の地理的特性として住宅密集地と集落が分散しており、配水に係るコストが割高にならざるを得ないことが要因となっています。

⑦施設利用率は、人口減少と水需要の縮小に伴い、漸減しています。

⑧有収率向上を図るため、漏水調査を毎年実施しており、漏水箇所の特定と解消に努めております。

2. 老朽化の状況について

当市では、昭和42年の市制施行以後、水需要の急増を受け、市内全域を結ぶ水道網の整備を行ってきました。

市制施行以前に整備されていた管路は概ね更新を完了していますが、市制施行以後に重点的に整備された、集落間を繋ぐ管路や、宅地造成に伴い整備された管路などについて、順次更新を図る必要があります。

当市では、平成29年度に策定した『管路耐震化・更新計画』により、管路の総合評価結果に基づき、更新費用の平準化を考慮しながら、計画的に更新を進めています。

全体総括

当市の水道事業経営は、現在のところ良好な状況を維持しておりますが、人口減少が続いており、将来の経営状況を楽観視することはできません。

住民生活と産業活動に不可欠なライフラインである水道水の安定供給を未来の世代に持続的に継承していくため、向こう20年間の経営指針となる『経営戦略』を策定し、5年毎に将来予測値を改め、最新の経営状況を反映した改訂を進めています。

今後も、経営効率化と健全経営の確保に、一層まい進してまいります。